



久遠



春江中学校教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

【は】 っけん・気付く 【ル】 ートを考えつながる 【え】 がおを創り出す

リアルでよりよい人間関係を

校長 横枕 耕史

最近、スマートフォンやタブレットなどデジタルデバイスの普及もあり、リアルな人間関係が希薄になってきたのではないかと思います。

例えば、食後にふと気が付けば、食卓を囲んでいる家族全員が自分の端末で SNS や動画など個別にアクセスしていることがありました。このような風景は普通のこととしてどの家庭にもあると思います。また、近所で遊ぶ4人の子どもたちが、家の玄関先に広げたレジャーシートの上でボードゲームなどをするのではなく、バラバラな姿態で自分の携帯ゲーム機に没入して遊んでいる姿を目にしました。昔と遊び方が変わったことを実感しながら、通信対戦ゲームでなく異なるゲームを興じているのなら一緒にいる意味はあるのか疑問に思いました。このように「みんなで一緒に過ごす」という意味や価値がなんだか変わってきたと感じます。

さて、視点を学校に変えると、異なる家庭で育ち、多様で異なる個性を有する生徒たちが、学校に集い学校生活を送っています。人は独りで生きていくことは難しく他者とともに生きる社会の縮図としてあるのが学校といえます。多様な他者と協働し、集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合ったり、合意形成を図ったり、意思決定したりできるようになるために、学校では集団活動を通して行動の仕方を身に付け、よりよい人間関係を形成できるようにするために、授業の他に様々な特別活動を行っています。

特別活動の学校行事や学年行事の目的には、学校生活に変化と調和を生み出し、同じ時間を共有し、個では体感できない経験をすることで、他者との絆を深め、よりよい人間関係を形成することがあります。

今年の運動会は天気が心配された5月24日(土)に無事に実施できました。運動会では昨年度の体育行事委員が主体となり決定した種目を行いました。短距離走など足の速さだけを競う種目だけでなく、運やハプニングが加味されるボール運び競争、サバイバル競争(障害物走)などの個人種目、全員リレーや大縄跳び、学年種目など学級の仲間と力を合わせて取り組む団体種目などが行われました。運動会スローガン「一笑懸命」の下、クラスを中心となってリードした体育委員、転んでも諦めないでゴールまで走る生徒、バトンを握りしめチームのため一所懸命に走る姿、頑張る仲間に熱い声援を送り勝敗に一喜一憂する生徒、クラス旗制作に尽力した生徒、運営スタッフとして活躍した生徒会専門委員会の係生徒、など様々な生徒の姿が見られました。

閉会式では、春江中校歌の歌詞の如く、**高き理想におかい青春のみなぎる意気で友情(なさけ)も熱く交わることができた**と満足している表情の生徒が多く見られ、他者とリアルでつながり、よりよい人間関係を形成することができた運動会になりました。

最後に、運動会にご協力いただきましたPTAやメンズクラブの方々、応援していただいた保護者や地域の皆様に感謝申し上げます。